

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 7年 2月 25日

事業所名 キノコにじいろクラブ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9	1	・事前に面談がある時など工夫(WB)あり ・利用目的に応じて使う部屋を変えている	・面談や会議ができるよう部屋を改修しました。これにより、話し合いの場と支援する空間を分けることができるようになりました。
	2	職員の配置数は適切である	6	4	・今年度は職員数に合わせ、利用人数の調整を行いました。求人募集にも力を入れ、定員以上の求職者がいました。	・専門性の高い支援の提供を目指し、少数精鋭のスタッフを確保し、状況に合わせた事業所運営を行っていきます。また、その方針をスタッフにも共有し、当事者意識を持てるようにしていきます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7	3	・物の整理整頓や物別の点検を定期的に行っています。	・視覚支援を多めに取り入れた環境を作っています。 ・情報伝達についてはHPやSNSを今年度から取り入れました。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	9	1	・方眼ノートを使って頻繁に共有している	・利用児や訪問等、業務が増えてきており、業務改善の為週に1度の会議を行っています。ICTを活用した業務効率化も図っていきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10		・にじいろDayや勉強会の際、アンケートを実施しています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	1	・事業所評価の結果をホームページにて公開しており保護者説明会でも詳細を伝えていきます。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	2	第三者委員を設置し定期的に見学に来ていただいています。	月に1度以上のペースで見学者の受け入れを行い、率直なご意見をいただくように努めてまいります。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10		・自己成長につながる研修を頻繁に行っております。(月1~3回程度)	4月より段階的に学べるeラーニングシステムを導入することになりました。これにより、学ぶ機会を増やし、支援の質の向上を目指します。
適切な支援	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10		・見学や初回の時点で評価、共有し支援の方向性を毎週話し合っています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10		事業所独自の評価バッテリーを活用しています。	評価の幅を広げる為、外部講師から学び、支援・評価バッテリーを更新していきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10		毎日支援前にミーティングを行い、週に1回ケース報告会議で共有	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10		支援前のミーティングで支援内容を共有し、遊びの内容も相談しています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	10		祝日は普段の支援ではできないようなイベントを開催している。	自立や余暇の充実に向け、子供たち自身でイベントを企画・運営していくプログラムを検討している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	10		・それぞれの形態のメリットを活かせるように個々の課題を組み込んでいます。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10		・屋礼後、短く、簡潔に支援者ミーティングを実施し、支援に活かしています。 ・判断に迷う事例はなるべく多くの職員の意見を聞くようにしています。 ・前日に配置の確認が出来るように事前にイメージできるようにしています。	

の提供	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	1	・支援の振り返りを都度行い共有が必要な情報はLINE等で職員間で共有しています。	週1回のケース報告の時間を活用し、訪問の情報も共有していきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10		本人の変化は大小関係なく記録に細かく記載しています。また、毎日支援前に打ち合わせも行っていきます。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10		・面談前（半年）に保護者にモニタリングを行っています。 ・ペアトレや面談を通して、本人のニーズを確認できるように積極的にコミュニケーションを取っています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	9	1	ガイドラインに示された支援内容と、保護者の意向や園での様子から検討した支援内容を擦り合わせて説明を行なっています。	スタッフと保護者に引き続き丁寧な説明と情報共有を行っていきます。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10		・子どもの状況を良く知り、専門的知見で説明できる職員が参加しています。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	10		保護者経由を基本にしているが、必要に応じて学校との直接確認を行うようにしている。	特に送迎が必要な児童においては各学校の連絡調整窓口や方法を必ず確認しておく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	8	2	不明：2 ・対象児が現在利用していない	現在該当なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	10		・日頃から保育所等訪問支援を通じて関係性を作り、事前の情報共有を行い担当者会議に必ず参加しています。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	10	0	担当者会議参加や事業所見学の受け入れを行っている。	今年度は該当児がいないが、今後は情報を共有する機会を作る。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	2	島内外問わず相談できる。事業所や専門機関があります。	職員の研修機関として、連携先を増やしていきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	3	イベント（にじいろDay等）で兄弟児の参加を呼び掛けている。	
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	9	1	積極的に参加している。	議事録や研修まとめを共有し、周知に努める
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10		送迎の有無に限らず、支援内容を都度保護者の方に共有するよう心掛けています。	ペアレントトレーニングの重要性や認知をもっと広めていきたいです。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行っている	10		・ペアトレの必要性を保護者だけでなく、スタッフ間でも話し合うようにしています。		

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	1	契約時に説明する内容をリスト化し、漏れがないようにし、重要な部分は特に強調して説明している。	説明ができる職員が限られているため、今後増やしていく。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10		ペアトレを通して日頃からコミュニケーションを気軽に取れるよう工夫しています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	10		・保護茶会を定期的に実施しています。	今後も保護茶会を定期的に開催していく
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10		保護者からの相談や申し入れは直ぐに共有を行い、対応するように職員に周知しています。	引き続き、情報共有や連携を迅速におこなう。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10		・月日よりSNSを利用した発信に加えHPを活用しての発信を行っています。	
	35	個人情報に十分注意している	9	1	個人情報の公開範囲を一覧にしたり、人権擁護のアンケートを取るなどして意識化しています。	今後も引き続きリスク管理をしていきます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	1	必要に応じて、写真や絵を用いて説明したり、個別で対応している	引き続き丁寧な説明や配慮に努めます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9		イベントの外部講師やボランティアを募るなど地域の方々に関わる	今後も関わる人を増やしていきたいと思えます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10		各マニュアルを作成し、非常時に対応できるよう訓練を行なっています。マニュアルは自由に閲覧できるスペースを設けています。	避難訓練の実施についてはホームページにて都度公開していることを周知する。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10		年間で避難訓練実施計画を作成し、実施しています。	引き続き消防等の協力を得ながら訓練を実施します。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10		所轄組織が開催している研修に参加し、伝達研修を行なっています。職員への人権擁護アンケートも年2回行なっています。	令和7年4月からはオンライン研修システムも活用予定です。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	9	1	基本的には身体拘束を行わないことを共有した上で、契約時にやむを得ず行う場合の説明と同意書のサインをお願いしています。	やむを得ず身体拘束を行った際は必ず保護者に説明、記録します。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	3	キャンプなどの食事や宿泊が伴う場合は詳細に状況を確認しています。	食事提供がなくても情報共有に努めてまいります。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10		ヒヤリハットとアクシデントに分けて記録をとっている。	支援者会議で振り返りを行い改善されているかの確認を継続して行います。	